

令和元年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

地域密着型の省力的栽培体系により合理的経営を実現

○氏名又は名称 藤盛 元・藤盛 ひとみ

○所 在 地 北海道有珠郡壮瞥町

○出 品 財 経営（りんご、おうとう、ぶどう）

○受 賞 理 由

・地域の概要

北海道有珠郡壮瞥町は、道南西部に位置し、道内においては比較的温暖で少雪な地域である。壮瞥町の基幹産業は農業と観光であり、藤盛氏の経営する「フジモリ果樹園」が位置する滝之町は、果樹専業経営が多い果樹産地の中心である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

藤盛氏は、昭和 59 年、大学卒業と同時に就農。水田・畑作・果樹の複合経営をしていたが、平成元年、父から経営移譲したことで、果樹専業の経営へ転換。機械化を考慮した園地整備や多品種化による収穫時期の分散、マメコバチによる受粉作業の軽減など、労働生産性を向上させる栽培体系を実現した。現在では、りんご 3 ha、おうとう 1.6 ha など、計 5.9 ha の経営規模を持つ。また、販売体系も市場出荷から直売所やもぎ取り等の対面販売に移行し、地域密着型の安定した経営を行っている。

・受賞者の特色

（１）地域における先駆的な栽培技術等の導入

壮瞥町では、少雪の影響で凍害が発生しやすく、おうとうにおいて樹の経済寿命が短かったため、剪定などの技術が普及していなかった。この状況に、コルト台木が凍害に強く地域の土壌に適応すると考え、先んじて導入。また、山形県から講師を招き、率先して剪定技術を学ぶなど、地域におけるおうとうの安定生産、品質向上を率いる役割を果たした。その他、霜害による被害軽減のための防霜ファンを道内初設置、機械化に対応した直線的園地の育成にも取り組んだ。

（２）ゆとりのある経営の実現

藤盛氏は、果樹農業の課題である労働集約的で作業時間が長いことに問題意識を持ち、省力栽培による労働時間の縮小や休園期間、定休日进行を設けるなど、ゆとりのある経営の中で、一定の収益を上げる工夫を積極的に行っている。

・普及性と今後の発展方向

加工向け果実の生産や加工業者への原料供給など、ニーズに対応した生産・販売を行っており、取組は、地域の生産者へ大きな影響を与えている。また、果樹産地の維持における問題意識も高く、担い手対策等へも積極的に参画しており、これらの姿勢は果樹産地の維持・発展に向けた牽引役として一層の活躍が期待されている。